

## 学期のまとめを丁寧に



爽やかな季節を迎え、英国らしい鮮やかで薫り高いバラが家々の庭に色とりどりに咲き誇っています。今学期もあと3週間、

1学期のまとめの時期となりました。

4月からの3か月で子どもたちは大きく成長したと思います。来るべき運動会への取組や校外学習、遠足、修学旅行、自然体験教室、現地校交流などさまざまな行事や体験から学ぶ子どもたちの姿に、そして日々の授業や学校生活の様子にその成長を見ることが出来ます。学校では、終業式に向けてこれまでの学習内容が確実に定着するよう授業づくりに取り組みます。また、子どもたち一人ひとりに、学期の始めに立てためあてや目標を振り返らせ、成果と課題を明らかにしながら1学期の締めくくりをしっかりとさせて参りたいと思います。

21日からは夏季休業に入ります。日頃、子どもたちは、時間に追われて慌ただしい生活を送っています。普段の学校生活と違った「夏休みにできること」「夏休みという長い期間でないとできないこと」を家族で計画し、お子様にとって楽しく有意義な夏休みになりますよう、よろしく願いいたします。

## 一致団結・運動会



来る7月14日(土)には、運動会が開催されます。今年度は、「徹頭徹尾～一生に一度の仲間と共に」のスローガンのもと、子どもたちは、

体育の授業や昼休みなどの時間を用いて、練習や準備に取り組んでいます。

本校の運動会は、全児童生徒が心をひとつにして取り組む大切な行事です。運動会当日は、多くの保護者の方々に足をお運びいただき、躍動感あふれる競技や演技、仲間を支える係活動、そして団結力を示す応援合戦などから、お子様の成長を感じていただけたらと思います。

## 「頭が白いのはなぜ？」

「校長先生の頭が白いのはなぜですか」1年生の女の子が突然こんな質問をしてきました。普段会話する機会の少ない校長の白髪頭を見て、素朴な疑問と親しみを込めて問いかけたと思うのですが、その「問い」の本質を探ることなく、「校長先生は、もう年だからねえ。白髪だらけだよ。いっぱい仕事をして頭が疲れたのかな。」などと、何とも味気のない答えを返してしまいました。その子は、何か物足りなさそうな表情を見せ、それ以上は話しかけてきませんでした。私は「しまった」と思いました。

私は、「頭が白いのはなぜ？」と感じた素朴な疑問や好奇心と、「校長先生とお話ししたいな」との願いが調和したこの「問い」の本質を正しく受け止めることができず、この子の腑に落ちるような粹な答えを返すことができないことに不甲斐なさを感じました。「問い」は常に学ぶ側(子ども)にとっての「問い」なので、賢明な知恵と豊かな経験、柔軟な発想と受容的な心がなければ、「問われた側(大人)の立場の正解」を一方向的に子どもに押しつけるということになりかねません。大切なのは、「問いかけてきた子どもの心を満たすことができたのか」ということです。問われた側(大人)は、学ぶ側(子ども)の疑問や好奇心を失わせてはなりません。学校での日常の学習の中でも家庭での親子のふれあいや会話の中でも忘れてはならないことだと思います。子どもたちの素朴な疑問や旺盛な好奇心を数多く導き出し、「この子が求めているのは何なのか。」をしっかりと受け入れた上で答えるという心構えが、私たち教師や親には必要なのだと改めて思いました。「この白髪頭も、まだまだ鍛え方が足りないなあ」と自省した出来事でした。

## ★養護教諭の異動についてお知らせ

7月より五十嵐文恵先生が復職され、櫻井幸先生が退職されることになりましたのでお知らせいたします。

## 小学部6年生、北イングランド・ウェールズへの旅



はじめに、陶器の街として有名なストーク・オン・トレントにあるエマ・ブリッジウォーターに行きました。そこでは、工場見学や絵付け体験をしました。

工場見学では、職人の方が一つ一つ手作業で行っている姿やその正確さに子どもたちは驚いていました。絵付け体験では、用意されたお皿にスポンジスタンプや筆を使って色を付けていき、思い思いに作品を作っていました。1時間程度の絵付け体験でしたが、世界に一つだけのお皿を作ろうと、黙々と取り組んでいました。

次に訪れたカーナフォン城では、歴史ある建物を間近で見て、その迫力に圧倒されました。狭くて急な螺旋階段を上ると、お城と海の素晴らしい景色が広がっていました。子どもたちは、「天空の城ラピュタ」に出てきた場所を探しながら、カーナフォン城を見て回っていました。

スノードン山では、天気が心配でしたが、麓から山頂まで晴れていて、登山鉄道から遠くの景色を見ることができました。山頂も雲がかかっておらず、頂上から360度の景色を見渡すことができました。遠くに見える海と空が融合している景色、山や湖の美しさに感動しました。

この修学旅行で、「時間を守ること」「時と場に応じて行動すること」など、集団行動をする上で大切なことを学び、多くの場面で子どもたちの成長を見ることができました。小学部最高学年として、修学旅行で得たものを今後の学校生活にも生かしていきたいと思います。

## 修学旅行を終えて



ました。

4日間天候に恵まれ、エディンバラ城やロイヤルマイルの見学、スコティッシュダンス体験などを通

小学部2年生は、修学旅行でスコットランドの「エディンバラ」と「グラスゴー」を訪

して、生徒達はスコットランドの歴史や文化に魅力を感じた様子でした。アーサーズシートやカールトンヒルでは、高台からの素晴らしい眺めを堪能し、広い芝生の上で気持ちよく走り回る元気な姿も見られました。また、Whitelee Wind Farmでは、スコットランドの気候を生かした風力発電施設やエネルギー問題について学習し、再生可能エネルギーについて考えを深めていました。

修学旅行のスローガンの「協心戮力（きょうしんりくりょく）」には、仲間とつながり、お互いの絆を深める修学旅行にしていこうという意味が込められています。修学旅行で班活動や集団行動を重ねる中、どの班でも仲間のことを気にかけて、声をかけたり相談したりする姿がみられ、日増しに集団意識の高まりや学年全体でのまとまりを実感できる充実した活動となりました。この修学旅行で育んだ、仲間への優しさや集団の一員であることの自覚を今後の学校生活にも生かしてほしいと思います。

## 英国の森を歩いて



6月8日(金)、中学部1年生はWendover Woodsへ遠足に行きました。遠足に向けて、生徒たちは「今回散

策した森がどのようにしてできたのか。」「今後、自然と人間がどのように向き合うべきなのか。」などについて事前学習を行いました。当日は、バスの車窓から英国の丘陵地やきれいに咲き誇る花畑を一面に見渡すことができる、遠足日和な一日となりました。そのような晴天に恵まれた中、生徒たちは新鮮な空気をたくさん吸いながら、森の中を気持ちよさそうに歩いていました。

班活動では、長い松かさ拾いを競ったり、英語の看板を探して訳したりするなど、木漏れ日の中で精一杯活動する生徒の姿がとても印象的でした。休憩中の「日向ぼっこ」も、生徒にとってよい思い出になったことでしょう。「人間は自然によって生かされている。」生徒たちには、自然への感謝の気持ちを大切にしながら、今後も生活してほしいと思います。